

No.35

2005年12月発行

淀川水系 流域委員会 琵琶湖部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第35回琵琶湖部会の内容……………P. 1
- 第35回琵琶湖部会の説明資料より抜粋……………P. 3
- 配付資料リスト……………P. 7
- 琵琶湖部会 委員リスト……………P. 8
- これまで開催された会議等について……………P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付……………P. 10

平成17年10月19日（水）、第35回琵琶湖部会が開かれました。



【ピアザ淡海にて】

第35回琵琶湖部会の内容

審議資料1-12「淀川水系 5 ダムの調査検討についての意見（目次案）」を用いて、意見交換がなされた後、委員との意見交換が行われました。

第35回琵琶湖部会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年10月19日（水）16：00～18：15

場 所：ピアザ淡海 3階 大会議室

参加者数：委員20名、河川管理者14名、一般傍聴者73名

- 決定事項：特になし
- 報告の概要
庶務より、報告資料 1 を用いて、第34回琵琶湖部会の結果報告がなされた。
- 審議の概要
 - ①丹生ダムの調査検討についての意見交換
審議資料1-12「淀川水系 5 ダムの調査検討についての意見（目次案）」を用いて、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。
 - 自然環境・地域社会への影響について
 - ・意見（目次案）の「2-3-3 自然環境への影響」には、琵琶湖への影響も含まれているのか。また、地域社会への影響についても触れておく必要があるのではないか。「自然環境への影響」については、実施予定のダム事業でのみ項目として挙げられているが、当面実施しないダムについても、治水事業による環境への影響について記述すべきだ。
←今回の意見書は 5 ダムの調査検討結果に対する意見書なので、現段階ではあえて抜いている。5 ダム共通の課題として記述する方がよいのかどうか、今後考えていきたい（委員）。
 - ・新たな丹生ダム計画の環境への影響は調査しているのか。調査項目を示してもらえればありがたい。
←環境については、計画変更後の丹生ダムの細部の構造等が決定していないので、引き続き、影響の軽減策や具体的な処方等を検討している。現在のところ、現計画の丹生ダムにおける自然環境への調査検討項目に関して、計画を変更したことで、これまでの調査結果が使えるのか、あるいは構造が変わってどのような変化があるのかを調査している。運用方法変更による自然環境への影響については、今後、WG等でご助言を頂いていきたい（河川管理者）。
 - ・現計画の丹生ダムの調査検討結果では、「丹生ダムは琵琶湖の低酸素化には影響がない」との結果が示されていたが、この結論を出したWGの審議内容を示してもらえないか。
←環境アドバイザーグループという制度においてWGを設置している。課題があれば都度WGを設置し問題解決にあたっている。基本的に、WGは公開で開催され、会議資料もHPにて公開している。現在のところ、新しい丹生ダム計画に関する検討についてはWGに示す資料すら提示できていない（河川管理者）。
 - ダム事業費について
 - ・丹生ダムと代替案の事業費の比較をするためにも、新しい丹生ダム計画や代替案の事業費を示して頂く必要がある。河川管理者が示した 5 ダム方針では、「経済的なメリットについて検討した結果、丹生ダムを実施する」としている。また、引堤や遊水地の事業費は丹生ダムよりも高くなるとも書かれている。丹生ダムや代替案の事業費が分かっているなければ、こういった記述はできないのではないか。
←ダムと代替案の事業費については、これまでに滋賀県が示した精査途中の合計額をお示ししているが、最新の状況に合わせたり、施工計画としての精度を高めるといった作業が長引いている。5 ダム方針の根拠となる事業費概算額はあるが、現在、精度を高めるための作業を進めている。時期は約束できないが、できるだけ早くお示ししたい（河川管理者）。
 - ←調査検討とりまとめで、高時川の代替案を示して、現計画の丹生ダムとの比較を行った。さらに、5 ダム方針で、新しい丹生ダム計画を提案しているが、ダム構造が決まっておらず、周辺施設等を含めた全体の事業費を関係者との調整を経た形で示せるレベルにはなっていない。ただ、ある程度の概算

額は持っており、その額で判断をした（河川管理者）。

- ・意見書作成の段階では、新しい丹生ダム計画の事業費や自然環境への影響は、河川管理者からは出てこない。これを踏まえた意見書にせざるを得ない。環境については、運用イメージに基づいて、実施すべき必要な環境調査等について提案すればよいと思っている。
- 治水について
- ・新しい丹生ダム計画は国交省の単独事業になるのか、それとも滋賀県に負担を求めるのか。また、資料 1-11 P1に改修率54.6%となるが、改修が必要な区間は何kmなのか。
←改修区間については確認をして改めて回答したい（河川管理者）。
 - ・高時川の治水問題を考える際には、山腹崩壊や土石流を考慮した上で、問題点を指摘しておかないといけない。土砂流出は代替案を検討する際にも重要になってくる。
←ダムによる土砂カットを治水上のメリットとして考えているのか（委員）。
←ダムによる土砂カットは、下流の河床低下によって環境が悪くなる一方で、治水上では安全側に作用するという見方もある。長期的な問題として考えなければならない（委員）。
 - ・ダム堆砂については「中部山岳地帯および中央構造線沿いの土砂流出の活発な地域を除けばそれほど気にすることはない」という委員の意見もあったが、堆砂問題はクリアしなければならない課題だ。ダムの是非を検討する際には堆砂もポイントになる。
- 異常渇水対策について
- ・8/30以降（洪水期後期）、夏期制限水位をBSL－30cmに引き下げた場合も＋7cmの水位で維持するのか。
←後期から始まる異常渇水も否定できないため、後期についても高めの運用を考えている（河川管理者）。
 - ・委員会の提言では、「自然環境の価値を考慮した経済性」について述べているが、この点も含めた検討をしているのか。また、新しい丹生ダムの構造がいつ頃明らかになり、環境への影響がいつ頃示されるのか。
←自然環境の価値をお金に換算するのは難しい。研究レベルの手法はあるが、判断の基準にするのは難しいと考えている。このため、今回の検討の中には含まれていない（河川管理者）。
 - ・河川管理者の異常渇水対策はBSL－1.5mを下回らないことを条件としているが、琵琶湖総合開発では補償対策水位－2.0mで合意がなされている。河川管理者はBSL－1.5mを前提に検討を進めるのか。
←河川管理者はその前提で進めていく。委員会としての意見を考えないといけな（部会長）。
- その他
- ・河川管理者の 5 ダム方針では、今後も各方面からの意見を伺いながら、関係者との調整をしていくと書かれている。一方、基礎案では、ダム事業について、経済的にも他に実行可能な方法がなく、社会環境・自然環境への影響について、その軽減策も含め、他の河川事業にも増して、より慎重に検討した上で、妥当と判断される場合に実施するとしている。丹生ダムの細部の構造が決まり、各方面への影響が決まってからでなければ、丹生ダムの方向は決定しないと理解してよいか。
←ダム計画の基本的な考え方は、基礎案に書かれている考え方で進めていく（河川管理者）。
4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者 3 名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。
- ・琵琶湖の自然環境や沿岸の浸水被害の軽減については、琵琶湖の治水利水計画そのものを根本的に見直すべきだ。意見書を書くための必要な資料が河川管理者から示されていない中で、どのような意見書が出てくるのか。責任は河川管理者にある。河川管理者は他にも各種委員会を設置しているが、本来は流域委員会や地域別部会で議論をすべきことが、他の委員会で議論されているような気がする。「塔の島地区河川整備に関する検討委員会」では、流域委員会の議論についても触れられておらず、「河川掘削ありき」の議論がなされていた。どの委員会でもどのような議論がなされているか、流域委員会への報告があるべきだ。「塔の島地区検討委員会」の資料では、引堤等の 4 つの案「対応」として説明されており、ごまかしの対応のような気がした。真摯な態度をとって頂きたい。
 - ・「塔の島地区検討委員会」では、計画確定をしていくという議論がなされていたように思う。流域委員会や住民説明会が無駄ではないかと思う。流域委員会の議論が中央本省や自治体まで届いていない。河川管理者分科会の審議についても、流域委員会に報告する必要がある。
 - ・異常渇水対策のシミュレーションでは、昭和14年渇水を対象にしているが、取水制限や節水等の細かいバックデータが出されていない。バックデータを検証する必要がある。滋賀県から出された資料と河川管理者の資料で最低水位やカーブが違う。より突っ込んだ検討が必要だ。

第35回琵琶湖部会の説明資料より抜粋

■審議資料1-11より
第35回琵琶湖部会では、審議資料1-11「平成17年9月14日に開催された第34回琵琶湖部会からの質問と回答」が河川管理者より示されました。以下に資料を掲載いたします。

第34回琵琶湖部会（平成17年9月14日開催）
における委員からの質問に対する資料

第34回琵琶湖部会において金盛委員よりご質問のありました件について、管理者である滋賀県に照会を行い、次のとおり回答を頂きました。

平成17年10月6日
近畿地方整備局河川部

平成17年9月14日に開催された第34回琵琶湖部会からの質問とその回答

滋賀県土木交通部河港課

質問1. 滋賀県が現在進められている河川改修の目標
（例えば、時間雨量〇mmに対処する、1/50降雨に対処する）
→回答：滋賀県の目標は、当面、10年に1回程度の降雨となる時間雨量50mm相当の降雨に対処することです。

質問2. その目標に対する進捗率
→回答：滋賀県における質問1. の目標に対する進捗率は、

時間雨量50mm相当以上の降雨に対処できる区間の延長	÷	改修が必要な区間の延長	= 54.6% (平成16年度末)
----------------------------	---	-------------	-------------------

質問3. 年度の河川改修事業費（維持管理を除く）（概数値で結構です。）
→回答：下表のとおりです。

【① 国庫補助事業】（単位：千円）					
	H12	H13	H14	H15	H16
広域河川改修事業費	6,411,000	6,111,000	4,080,000	3,769,000	3,794,000
住宅市街地基盤整備事業費	395,000	688,000	600,000	568,000	600,000
【② 県単独事業】（単位：千円）					
	H12	H13	H14	H15	H16
単独河川改良事業費	5,487,000	5,484,000	5,348,000	3,500,000	3,500,000
【①+②】（単位：千円）					
計	12,293,000	12,286,000	10,028,000	7,837,000	7,894,000

質問4. 高時川の河川改修事業費（質問3. について高時川）
→回答：下表のとおりです。

（単位：千円）					
	H12	H13	H14	H15	H16
①国庫補助事業	0	0	0	0	0
②県単独事業	0	36,995	65,988	79,000	39,730

質問5. 高時川の河川改修の進捗および目標（質問1. 2. について高時川）
→回答：
①河川改修の進捗
・高時川においては、10年に1回程度の降雨に対処できる河道がほぼ確保できています。
②河川改修の目標
・高時川は、流域面積の大きさ、県内バランス等から、1/100の治水安全度を目指すべき河川です。
・しかし、滋賀県の財政状況等を踏まえると、今後おおむね20年～30年間に、1/100を達成することは困難です。
・そこで、今後おおむね20年～30年間には、戦後最大洪水を安全に流下できるように努めることとしています。（戦後最大洪水：S34年8月、S34年9月、S50年8月）
＜参考資料：淀川水系流域委員会第42回委員会（H17. 7. 21）審議資料1-6-1 p3参照＞

質問6. 高時川で最後に完了した改修事業と概算事業費
→回答：最後に完了した改修事業は、次のとおりです。
実施年：昭和30年度～昭和47年度
事業費：約2億5千万円
事業名：中小河川改修事業（国庫補助事業）
場 所：姉川合流点～井明神橋（L=約10km）
主な工種：築堤、低水護岸
その他：上記の中小河川改修事業とは別に、S31, S32, S38, S60, S63に災害関連事業（国庫補助事業）を実施。

事業名	事業年度	施工箇所
高時川中小河川改修事業	S30～S47	姉川合流点～井明神橋（L=10km）
高時川災害関連事業	S31	湖北町下野
高時川災害関連事業	S32	高月町雨森
高時川災害関連事業	S38	木之本町古橋
高時川災害関連事業	S41	余呉町中河内
高時川災害関連事業	S60	高月町馬上、雨森
高時川災害関連事業	S63	余呉町中河内

※災害関連事業とは、再度災害を防止するため、被災箇所あるいは未災箇所を含む一連の施設について、災害復旧事業費に改良費を加えて実施する改良事業のことです。

以上

■審議資料1-12より
第35回琵琶湖部会では、審議資料1-12「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」を用いて、委員間で意見交換が行われました。以下に資料を掲載いたします。

淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）

序

- 1 はじめに
 - 1-1 環境面からみたダムについての基本的な考え
 - 1-2 治水面からみたダムについての基本的な考え
 - 1-3 利水面からみたダムについての基本的な考え

- 2 丹生ダム
 - 2-1 丹生ダムの経緯
 - 2-2 丹生ダムの効果
 - 2-3 丹生ダムの問題点
 - 2-3-1 高時川の治水
 - 2-3-2 異常渇水時の緊急水補給
 - 2-3-3 自然環境への影響
 - 2-3-4 関連事業
 - 2-3-5 経費配分

- 3 大戸川ダム
 - 3-1 大戸川ダムの経緯
 - 3-2 大戸川ダムの今後の課題
 - 3-2-1 大戸川の治水
 - 3-2-2 関連事業
 - 3-2-3 経費配分
 - 3-2-4 地域社会への影響

- 4 天ヶ瀬ダム再開発
 - 4-1 天ヶ瀬ダム再開発の経緯
 - 4-2 天ヶ瀬ダム再開発の効果
 - 4-3 天ヶ瀬ダム再開発の問題点
 - 4-3-1 天ヶ瀬ダムの放流能力
 - 4-3-2 瀬田川洗堰の放流能力

- 4-3-3 鹿跳溪谷の流下能力
- 4-3-4 宇治川の流下能力
- 4-3-5 環境への影響

- 5 川上ダム
 - 5-1 川上ダムの経緯
 - 5-2 川上ダムの効果
 - 5-3 川上ダムの問題点
 - 5-3-1 上野地区の治水
 - 5-3-2 川上ダムの自然環境への影響

- 6 余野川ダム
 - 6-1 余野川ダムの経緯
 - 6-2 余野川ダムの今後の課題
 - 6-2-1 猪名川の治水
 - (1) 多田地区の治水
 - (2) 猪名川下流の治水
 - 6-2-2 関連事業
 - 6-2-3 経費配分
 - 6-2-4 地域社会への影響

7 おわりに

配付資料リスト

●第35回琵琶湖部会 配付資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		B35-A
報告資料1	第34回琵琶湖部会（H17. 9. 14開催）結果報告	B35-B
審議資料1-1	淀川水系5ダムについて（調査検討のとりまとめ） ※河川管理者提供資料	B35-C
○審議資料1-2	丹生ダムの調査検討（とりまとめ）（10月19日版） ※河川管理者提供資料	B35-D
審議資料1-3	丹生ダム建設に伴う自然環境への影響について（7月21日版A4版） ※河川管理者提供資料	B35-E
審議資料1-4	「琵琶湖水位操作についての意見書 中間とりまとめ（2005年1月22日）に 関する検討（8月24日版） ※河川管理者提供資料	B35-F
審議資料1-5	今回の方針における丹生ダムの運用イメージ（補足説明）（8月24日版） ※河川管理者提供資料	B35-G
審議資料1-6	高時川における治水対策の効果 ※河川管理者提供資料	B35-H
審議資料1-7	琵琶湖の水位上昇抑制効果（9月14日版） ※河川管理者提供資料	B35-I
審議資料1-8	姉川・高時川の治水対策（これまでの説明内容）（9月14日版） ※河川管理者提供資料	B35-J
審議資料1-9	異常渇水時の緊急水の補給のための容量を琵琶湖で確保することについて （9月24日版） ※河川管理者提供資料	B35-K
審議資料1-10	丹生ダムによる貯留効果検討対象洪水におけるハイエトグラフ及び 降水量分布図（9月24日版） ※河川管理者提供資料	B35-L
○審議資料1-11	平成17年9月14日に開催された第34回琵琶湖部会からの質問と回答 ※滋賀県土木交通部河港課提供資料	B35-M
○審議資料1-12	淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）	B35-N
その他資料	委員会の今後のスケジュール	B35-O
参考資料1	委員および一般からのご意見	B35-P
参考資料2	新聞記事集	B35-Q

注： ○：新たに河川管理者から提供（または修正）のあった資料
注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP. 10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

琵琶湖部会 委員リスト

2005. 10. 19現在（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所 属 等	兼任状況
1	綾 史郎	洪水、高潮・津波	大阪工業大学 教授	淀川部会 住民参加部会
2	池淵 周一	水資源・水循環	京都大学防災研究所 教授	猪名川部会 利水・水需要管理部会
3	江頭 進治	河道形状・土砂移動	立命館大学理工学部 教授	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
4	嘉田 由紀子	地域・まちづくり	京都精華大学 教授 滋賀県立琵琶湖博物館 研究顧問	淀川部会 住民参加部会
5	角野 康郎	植物	神戸大学理学部 教授	猪名川部会 住民参加部会
6	川崎 雅史	景観	京都大学大学院工学研究科 助教授	淀川部会 住民参加部会
7	田中 真澄	住民連携	岩屋山志明院 住職 鴨川の自然をはぐくむ会 代表 NPO法人 市民環境研究所 副代表	淀川部会 住民参加部会
8	寺川 庄蔵	住民連携	びわ湖自然環境ネットワーク 代表	淀川部会 住民参加部会
9	寺西 俊一	経済	一橋大学大学院経済学研究科 教授	淀川部会 利水・水需要管理部会
10	戸田 直弘	漁業関係	滋賀県漁業協同組合連合青年会 理事	住民参加部会
11	中村 正久	水環境	滋賀大学 環境総合研究センター 教授	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
12	西野 麻知子	動物	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 総括研究員	淀川部会 利水・水需要管理部会
13	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院環境科学部 教授	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
14	三田村 緒佐武	生態系、住民連携	滋賀県立大学環境科学部 教授	猪名川部会 住民参加部会
15	安田 喜恵	水文化	国際日本文化研究センター 教授	淀川部会 利水・水需要管理部会
16	谷内 茂雄	生態系	総合地球環境学研究所研究部 助教授	淀川部会 住民参加部会

これまで開催された会議等について

委 員 会		琵琶湖部会		淀川部会		猪名川部会	
第1回 ～第6回	平成13年開催	第1回 ～第8回	平成13年開催	第1回 ～第10回	平成13年開催	第1回 ～第6回	平成13年開催
		第9回 ～第20回	平成14年開催	第11回 ～第20回	平成14年開催	第7回 ～第17回	平成14年開催
第7回 ～第15回	平成14年開催	第21回 ～第27回	平成15年開催	第21回 ～第23回	平成15年開催	第18回 ～第20回	平成15年開催
第16回 ～第27回	平成15年開催	第28回	H16/10/13（水）	第24回	H16/8/25（水）	第21回	H16/9/1（水）
		第29回	H16/11/8（月）	第25回	H16/9/17（金）	第22回	H16/10/21（木）
第28回	H16/2/26（木）	第30回	H16/12/15（水）	第26回	H16/10/19（火）	第23回	H16/11/2（火）
第29回	H16/5/8（土）	第31回	H17/1/8（土）	第27回	H16/11/30（火）	第24回	H16/12/3（金）
第30回	H16/6/22（火）	第32回	H17/4/13（水）	第28回	H16/12/18（土）	第25回	H16/12/23（木）
第31回	H16/7/29（木）	第33回	H17/8/17（水）	第29回	H17/4/11（月）	第26回	H17/4/14（木）
第32回	H16/8/24（火）	第34回	H17/9/14（水）	第30回	H17/8/22（月）	第27回	H17/8/18（木）
第33回	H16/9/29（水）	木津川上流部会		第31回	H17/9/13（火）	第28回	H17/9/11（日）
第34回	H16/10/25（月）	第1回	H17/4/20（水）	ダムWG		3ダムサブWG	
第35回	H16/11/16（火）	第2回	H17/8/20（土）	第1回	H16/7/11（日）	第1回	H16/8/7（土）
第36回	H16/12/20（月）	環境・利用部会		第2回	H16/7/18（日）	第2回	H16/9/11（土）
第37回	H17/1/11（火）	第1回 ～第7回	平成15年開催	第3回	H16/7/25（日）	第3回	H16/11/8（月）
第38回	H17/1/22（土）	治水部会		第4回	H16/8/19（木）	川上ダムサブWG	
第39回	H17/2/5（土）	第1回 ～第6回	平成15年開催	第5回	H16/9/23（木）	第1回	H16/8/3（火）
第40回	H17/3/14（月）	利水・水需要管理部会 （旧利水部会）		第6回	H16/10/4（月）	第2回	H16/9/3（金）
第41回	H17/5/17（火）	第1回 ～第5回	平成15年開催	第7回	H16/10/18（月）	余野川ダムサブWG	
第42回	H17/7/21（木）	第6回	H17/4/24（日）	第8回	H16/11/10（水）	第1回	H16/8/11（水）
第43回	H17/7/25（月）	住民参加部会		第9回	H16/12/1（水）	第2回	H16/9/22（水）
第44回	H17/8/5（金）	第1回 ～第7回	平成15年開催	第10回	H16/12/5（日）	水位操作WG	
第45回	H17/8/24（水）	第8回	H17/4/24（日）	丹生ダム意見交換会		第1回	H17/6/29（水）
第46回	H17/9/24（土）	平成13年開催		住民の意見を聞く会		H16/9/27（月）	
その他	設立会、発足会 第1回 合同懇談会	平成13年開催		住民と委員との意見交換会（丹生ダム）		H16/12/5（日）	
	第1回 合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会 提言説明会	平成14年開催		住民と委員との意見交換会（余野川ダム）		H17/8/17（水）	
	しっかりしてや!!流域委員会	平成15年開催		住民と委員との意見交換会（川上ダム）		H17/8/18（木）	
	ファシリテーターとの検討会	H16/2/28（土）		住民と委員との意見交換会（大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発）		H17/8/20（土）	
	大戸川、天瀬ダム意見交換	H16/5/15（土）		木津川上流部会意見交換会		H17/8/22（月）	
		H16/9/26（日）				H17/9/12（月）	

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵 送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲 覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。

ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。

※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研（株）



淀川水系流域委員会 琵琶湖部会ニュース No. 35

2005年12月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本
事務担当：山根

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1（大阪富士ビル8階）

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E - mail : yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス
<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。